

困り事と「希望」

この数年、「希望学」の釜石調査に参加してきた。私が行ったのは、釜石の人びとの困り事やトラブルの経験に関する調査である。困り事やトラブルというと一見「希望」とは何の関係もなさそうだが、釜石の人びとが、日常どのような困り事やトラブルにであい、それを解決してきたかということの中に、釜石の人びとの日常生活からみた「希望」の在りかを探ることができるのではないかと考えた。

実際、調査してみると、釜石の住民の皆さんもいろいろな困り事やトラブルを抱えていることが分かった。住民アンケート調査では、実に3分の1以上(37パーセント)の人が、過去5年間に何らかの困り事やトラブルを経験したと答えている。もちろん困り事やトラブルの内容はさまざまだが、その中のいくつかは、地域が抱える問題ともつながるものであった。個別のインタビュー調査では、さらに詳しいお話を伺うこともできた。調査にご協力いただいた方には、この場を借りて心からお礼を申し上げます。

相談できる「つながり」の大切さ

これらの調査を通じて明らかになったのは、困りごとやトラブルを抱えたときにその人が「希望」を持てるかどうかの大きな鍵は、気軽に相談できる「つながり」にあるという点である。アンケートやインタビューからは、家族であったり、友人であったり、あるいは専

希望学プロジェクト特別寄稿

地域の課題と「住民自身による調査」の可能性



第9回 佐藤岩夫さん

Profile さとう・いわお

1958年生まれ。東京大学社会科学研究所教授。専攻は法社会学。著書『現代国家と一般条項』『利用者からみた民事訴訟』など。



門家の人に話を聞いてもらい、アドバイスを
得られたことが、大きな励みになり、立ち
直りや問題解決の重要なきっかけになってい
ることが分かった。

そして、この点で少し気になったのは、調
査の中でときどき、「釜石は人と人のつながり
が薄い」という話を耳にしたことである。家
族、地域、職場、趣味・スポーツ、さまざま
な場面で気軽に相談できる人とのつながりが
重要で、特に釜石では、地域の高齢化が急速
に進み、一人暮らしのお年寄りも増えている
ようであるので、これからますます大事に
なってくると思う。

また、釜石には、行政・民間のいろいろな
相談窓口や弁護士・司法書士など専門家の事
務所がある。困り事を抱えた人びとがこれら
の窓口や専門家に気軽に相談に行くことがで
きる仕組みをつくる―住民と窓口や専門家を
「つなぐ」ことも重要である。

「住民自身による調査」がもつ可能性

ところで、今日は、もう一つ、ぜひ書きた
いことがある。私の行った調査は、専門の研
究者が行う「社会調査」といわれるものであ
るが、最近、全国各地で、地域の課題に取り
組む方法の一つとして、「住民調査」「市民調
査」の可能性が注目されている。「住民調査」
「市民調査」というと、大学の研究者や行政・
企業・マスコミなどが住民や市民を対象とし
て行う調査の意味で用いられることが多いが、
ここでいわれているのは、住民（市民）自身

による調査のことである。

私たちのような大学の人間や行政・企業で
はなく、住民の皆さん自身が調査することに
はどのような意義があるのかといえば、一つ
は、外部の人間よりも、皆さん自身のほうが
自分たちの生活や地域のことをよく知ってい
るからである。調査をする人と調査対象との
距離が近いことで、問題や課題を適切に、深
く理解できる可能性がある（ただ普段は、「当



たり前」すぎてかえって見えにくくなってい
ることがあるので、問題や課題として「発見」
し、考えるために、あえて「調査」という構
えが必要だということになる。

もう一つの意義は、住民の皆さん自身で調
べ、そのことを身近な人と話してみること
を通じて、いろいろつながりができ、また、
その中から良いアイデアも生まれてくる可
性である。その成果を、行政とも連携しなが

らいかしていくことは、地域のつながりや自
主的な問題解決能力を高めていくきっかけと
もなるだろう。いま、「住民自身による調査」
が注目されている大きなメリットである。

気軽に始めてみては

「調査」というと、何か難しく感じられるか
もしれないが、要は、自分たちの置かれてい
る状況や地域の様子を普段より少しだけ注意
深く眺め、調べ、そして、それについて話し
合ってみることである。釜石の皆さんも、気
軽に始めてみてはどうだろうか。

もちろん、少しは仕掛けやきっかけが必要
かもしれない。たとえば、釜石でも、市役所
や地元にある企業も協力して、住民による調
査のアイデアを広く募集し、援助する「住民
による調査コンテスト」なんてあったらすば
らしいと思う。

また、中学校や高校での授業に取り入れて
もらうことも考えられる。身近な問題を調べ、
その意味を考え、解決に向けたアイデアを出
し合うこと、これは今でも授業で行われてい
るかもしれないが、少し長い時間をとって
じっくり取り組んでみると、その経験は大人
になってからも役に立つだろうし、実は、若
い人の新鮮な発想で、今の釜石に役立つヒ
ントが得られるかもしれない。

「住民自身による調査」の実践は、私たちが
行った調査とはまた違った意味で、地域の希
望のいろいろな可能性を開いてくれるように
感じる。



東京大学社会科学研究所
希望学プロジェクト特別寄稿